

AWC 韓国委員会からの連帯メッセージ

人類の災禍、原子爆弾の投下から 71 年を追悼する
— 8・6 青空式典にあたって

広島と長崎に人類初の原子爆弾が投下されて 71 年という歳月が流れた。これまで人類が経験してきた自然災害を除いては、短時間の内に最も残酷な災禍を見せつけた。それで終わりではなかった。今も被爆二世三世の苦痛は続いている。

人類自ら、残酷で具体的な核の災禍を経験したにもかかわらず、核を通じた火遊びは継続されている。死の災禍という強力な警告にもかかわらず、核開発は拡散し続いている。

アメリカと旧ソ連の間で、戦略兵器削減条約 (START) によって、それぞれが保有していた 1 万個以上の核弾頭をそれぞれ 5 千個に減らし、2000 年代後半からアメリカとロシアは核兵器の 80% 削減を推進してきた。バラク・オバマは 2008 年 4 月、「核兵器なき世界」を掲げて、ノーベル平和賞を受賞した。

アメリカとロシアは 2010 年、「新戦略兵器削減条約 (新 START)」を締結したが、核兵器の削減はたいして実現されていない。むしろアメリカは、今後 30 年間に約 1 兆ドルを投じて核兵器現代化を推進するというマスコミ報道があり、ロシアもまた核兵器の現代化を推進している。

これに対応して、中国とインドもまた核兵器開発に拍車をかけている。核拡散防止条約 (NPT) は守られないでいる。もっとも NPT そのものが、核の強大国だけが核を保有することができるという不平等条約だ。NPT ではなく、「核廃棄条約」を結ばなければならない。

核は軍事帝国主義の必然的結果だ。通常兵器では核に対抗できないという、いわゆる「非対称性」を克服するために核兵器開発は続いている。核を保有していなかった国家も、原子力発電所の稼働を通じてプルトニウムを生産・保存しながら核開発の野心を燃やしている。今日、地球上に存在する核兵器は、71 年前に広島と長崎に投下された原子爆弾とは比較にならないほどの破壊力をもっている。

第二次世界大戦という帝国主義侵略戦争の戦犯国家である日本は、広島、長崎の原爆の災禍を経験しながらも、再び帝国主義としての復活を夢見ている。好戦的な安倍政権は、自公の議会内の優位を通じて戦争法を通過させ、この間の参議院での圧勝で虎視眈々と平和憲法 9 条の改悪まで試みようとしている。

福島原発の爆発事故から 5 年が過ぎた今、原発再稼働と原子力発電所の輸出を推進している。日本をアメリカの軍事基地にしつつ、日米同盟を強化している。東アジア地域にアメリカの軍事力を集中させ、中国包囲戦略を強化する中で、軍事的緊張が高まっている。この地域内の原子力空母、原子力潜水艦、核弾頭搭載の戦略爆撃機、核弾頭ミサイル、原発などは、核の地雷原となっている。

しかし人類は核と共存できない。核とは、すなわち死だ。だから反核を超え、脱核を主張する運動を継続していかねばならない。71 年前、広島に人類の災いである核爆弾が投下された。今日は、被爆二世、学生、労働者、障害者が集まり、反戦・反核・反原発・被爆者解放のための青空式典が開かれている。放射能混じりの黒い雨の降る空ではなく、平和の青い空を希望する。今日、韓国と日本で開かれる「青空共同行動」を支持し、ともに闘います。

2016 年 8 月 6 日 (土) AWC 韓国委員会代表 許栄九 (ホ・ヨング)